

生徒指導部通信

令和2年度第5号

令和3年2月26日

文責 林 宏幸

■ いよいよ旅立ちの時 ～卒業～

まだまだ寒い日が続いている中、卒業式がいよいよ3日後に迫ってきました。今年の卒業生は“37名”。私がえりも高校に赴任してからの4年間では、最多の人数です。そんな卒業生の皆さんの印象は「まとまり・つながりの強さ」です。他の学年に比べて人数が多いこともそう感じさせる要因かもしれませんが、それよりも『人間関係の良さ』が大きな要因だと思います。私が見てきた様子からは、男女分け隔てなく仲が良く、また誰一人孤立させることなく学校生活を過ごしてくれたと感じています。ぜひ、その仲間を大切にする心は卒業して社会に出ても持ち続けていてください。

では今年度を振り返りつつ、生徒指導に関わるメッセージを書いていきます。

■ 何と云ってもコロナ禍による我慢の連続

少しは状況が良くなったものの、未だに収束が見えない新型コロナウイルス感染症。今年度はほとんどの学校行事や部活動の大会が中止を余儀なくされ、我慢が強いられる1年でした。特に、3年生は最後となるはずの行事や大会がほとんど経験できずに終わるという残念なものでした。悔しさや怒りなど計り知れないほどの気持ちを感じていたはずなのに、それを周りに感じさせない3年生の逞しさや我慢強さは見習いたいものです。

このコロナ禍の中でも状況が少し落ち着いてきたことにより、球技大会と予餞会、2つの行事を実施することができました。実施するうえで委員会・生徒会執行部に伝えてきたのは、“できないことよりできることを考える”発想です。コロナのせいであれもこれもできないという制限があるのは事実ですが、その中でどうしたらできるかを考えることは、これからの時代にも生きるのではないのでしょうか。



【マスクの着用を徹底するなど感染対策をしながら実施した球技大会（↑）・予餞会（↓）



■ 物理的距離より心理的距離

冒頭に3年生のつながりの強さ、人間関係の良さを書きましたが、今年度は特にそれを感じました。コロナ禍の中で、いわゆるソーシャルディスタンスを取って会話を控えるといった行動制限がありました。周囲と関わるうえで会話をしないことは苦しいはずですが、皆さんにはそれをもろともしない“心理的距離の近さ”があります。それを物語っているものの一つに、「いじめゼロ」の達成です。今年度は、いじめの認知件数が0、つまりいじめがなかったということになります。もちろんちょっとしたトラブルやいざこざはあったでしょうが、わずかなやり取りの中でお互いの気持ちを汲み取ることができたから、大きな事態に発展しなかったとも考えられます。これは、小さい頃から学校生活を共にしてきた皆さんだからこそ・・・つまり、一朝一夕ではできない信頼関係があってこそのことなのです。繰り返しになりますが、ぜひ築いてきた関係を大切にしてください。

■ “自分ごと”として捉える

上に書いた通り、いじめゼロを達成できたことは喜ばしいことです。

年度初めの生徒指導部通信（令和2年5月8日付）でも、「特に心がけてほしいこと」の一つに挙げていました。せっかくなので改めて掲載します。



【特に心がけてほしいこと】

①挨拶の励行

②いじめを許さない

③言葉遣いを丁寧に

なぜ掲げたかという、これらが今後も重要なことであり、かつ、現れりも高校生の課題でもあるからです。一番の課題は何と言っても、①挨拶の励行。私の感覚では、年々“自分から挨拶”ができなくなっている印象です。廊下ですれ違ってもこちらから挨拶をしてやっとなり返してくれるという人が多いと感じます。特に今年度に入ってから、私自身、生徒指導部長という立場から挨拶を意識していたこともあり、より強くそれを感じます。もちろん、気持ちの良い元気な挨拶ができている人もいますが、それよりもできない人が目立つのです。「挨拶はできて当たり前」。そう考えられています。しかし、できて当たり前のことができていない現状があります。

そして、残念なことに個人のことや一部の人のことでも、集団全体のこととして捉えられてしまうのが現実です。「えりも高校」に所属する一員としては、できて当たり前のことができなくて皆さんの評価、ひいてはえりも高校の評価が下がることは、心苦しくて仕方がありません。そうはなって欲しくはないからこそ、全校集会でも話をしましたし、今回紙面に載せてまで苦言を呈させてもらいました。生徒指導の目的の一つとして、『様々なことを“自分ごと”として考え、自分の行動に気づいて改善できること』があります。ぜひとも“自分ごと”として捉えてください。

■ 今こそ、えりも高校生の良さを・・・

3年生の皆さん、えりも高校生の良さとは何でしょうか。私が思う一つに、『主体性』の素地があることです。もう少しわかりやすく言うと、「様々なことに素直に取り組める力」です。様々なことに取り組めると、知識やスキルが身に付きやすいです。そして「主体性」というのは、知識やスキルを活かしながら、自分の判断で動けるようになることだと思います。昨今の世の中では、主体性の大切さが謳われています。いきなり最初から自分から動ける人はなかなかいません。でも、時間をかければきっと動けるはずです。皆さんにはその力があります。自信を持ってください。

そしてこれまでの成長の姿を示す場が、『卒業式』です。今年度のえりも高校生91名が全体で共に過ごせる最後の場。主役は言わずもがな3年生。それに華を添えるのが1・2年生。終わりよければ全てよしです。全員が身だしなみを整え、自分の判断で動く“指示なし礼法”を綺麗に揃えましょう。それが3年生の有終の美となるはずです。では少し早いですが、北海道えりも高等学校32期生・37名の皆さん、卒業おめでとう！